

## 2023年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	版画家たちの世界旅行—古代エジプトから近未来都市まで			担当者名	高野詩織			
会期	2023年7月22日(土)～9月24日(日)			開催日数	56日間			
協賛・後援・協力	なし							
巡回館	なし							
展覧会概要	「世界旅行」をテーマに、西洋版画のオールドマスターからヨルク・シュマイサーら現代作家まで、多種多様な国と地域から着想を得た版画家の作品を紹介する收藏品企画展。新型コロナウイルス感染症の影響により展示期間が半減した2021年度の特別展「#映える風景を探して—古代ローマから世紀末パリまで」を当館コレクションのみで再構成し、20世紀以降の現代作品を加えた約160点を展示した。							
ねらい・対象	夏休み期間の收藏品企画展として、町田市内外の小中学生をメインターゲットとした。ヨーロッパの古版画を中心に構成した「#映える風景を探して」展から内容を発展させ、日本、オーストラリア、エジプト、南極などを実際に訪ねた版画家たちの作品を展示することで、学校の授業やメディアを通じて外国に関心を抱いた子どもたちに楽しんでもらえるように心がけた。							
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数			
	記念講演会	9月18日(月・祝)	旅と版画 驚異・発見・夢想	巖谷國士	102人			
	バックヤードツアー	8月5日(土)	親子で探検！美術館バックヤードツアー	担当学芸員 協力：博物館実習実習生	37人(17組)			
	こどものための鑑賞会	8月19日(土)	はながワールドツアー	富田めぐみ (NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事)	19人			
	ギャラリートーク	7月29日(土) 8月20日(日)	担当学芸員によるギャラリートーク	担当学芸員	20人 28人			
	プロムナードコンサート	9月9日(土)	音楽の世界を旅する	桜美林大学芸術文化学群、玉川大学芸術学部	196人			
	小中学生向けジュニアガイド配布	会期中			3000人			
観覧料	一般	大・高生	中学生以下	無料日				
	800 円	400 円	無料	・初日：7/22 ・シルバードー(満65歳以上無料)：7/26、8/23				
	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、大・高生	内、小・中生	内、その他	
	5,757 人	2,288 人	8,045 人	6,604 人	403 人	1,038 人	0 人	
	目標値	8,880 人						
主な収入	観覧料収入		図録販売収入		受託販売収入		その他の特定財源	
	3,822 千円		536 千円		1,124 千円		— 千円	
事業経費	・講師謝礼			58千円				
	・事業協力謝礼			50千円				
	・著作権使用申請委託料			31千円				
	・設置・撤去委託料			496千円				
	・作品額装委託料			496千円				2,668 千円
	・広告・宣伝委託料			143千円				
	・ポスター等作成委託料			648千円				
	・ディスプレイ作成委託料			644千円				
	・イベント企画運営委託料			102千円				
主な広報・取材等の講評	【テレビ】NHK日曜美術館アートシーン(9月3日放送) 【ラジオ】GOOD NEIGHBORS(J-WAVE) 【新聞】東京新聞、相模原新聞、町田ジャーナル 【雑誌】NHK出版「旅するイタリア語」9月号、散歩の達人9月号、月刊ギャラリー 【ウェブ】Fashion Press、国際文化会館WEB、Tokyo Live&Exhibits、ウェブ美術手帖、美術展ナビ、ウォーカープラスほか							

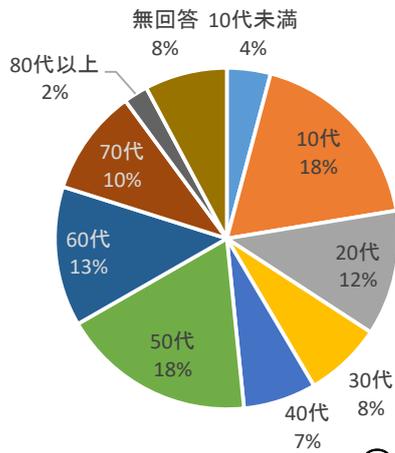
アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)		
	219 件	2.7 %	30 %	64 %	企画の内容	展示作品	展示の仕方等
	主なご意見		別紙のとおり。				
工夫と反省点、改善方法	予備調査	2022年8月頃に、「#映える風景を探して—古代ローマから世紀末パリまで」展を再構成した収蔵品企画展の開催が決定し、作品の選定・調査を開始した。当初は企画展示室1のみでの開催を予定していたが、9月頃に企画展示室2を含めた2室で実施することとなり、他館から作品を借用せずに展覧会を構成するために、地域・時代の範囲を広げることとした。同年11月に最終的なタイトルを「版画家たちの世界旅行」とした。イベント関係者への連絡は2023年3月頃に行い、適宜打ち合わせを行った。					
	作品選択	約150点をを選定し、5章構成とした。会期が夏休み期間と重なることから、小中学生に親しみを持ってもらえるように取り上げる地域を日本を含む世界へと広げ、20世紀以降の大画面作品やカラーの版画も付け加えた。なお、「#映える風景を探して—古代ローマから世紀末パリまで」展と重複した出品作品は約50点である。 「1章 イタリアを目指す旅」では、アルプス以北の「北方ヨーロッパ」から修行や研鑽のためにイタリアを訪れた16-19世紀の版画家を紹介。ピーテル・ブリューゲル(父)他オールドマスターの名品を展示した。「2章 「オリエント」をめぐる旅」では、17-20世紀にヨーロッパを離れ、まだ見ぬ土地を目指した版画家たちを取り上げ、ナポレオンの『エジプト誌』、ジョルジュ・ビゴの『クロッキー・ジャポネ』などを展示した。「3章 「絵になる風景」を発見する旅」では、18-19世紀のイギリスとフランスで流行した景勝地をめぐる国内旅行「ピクチャレスクツアー」を取り上げた。「4章 都市に集う芸術家の旅」では、19世紀末のパリ、20世紀中頃のニューヨークで創作活動を行った版画家の作品を紹介し、とりわけ第二次世界大戦期にアメリカに渡った「亡命芸術家」に光を当てた。最後の「5章 現代の「旅する芸術家」」では、世界各地で大規模なアート・プロジェクトを手がけたクリストとジャンヌ=クロードと、ヨーロッパからアジア、南極までを旅したヨルク・シュマイサーをご紹介した。またエピソードとして「旅する版画」を特集し、「TOKYO まちだ国際版画展」(1992年)等の国際展を通じて当館に収蔵された作品を活用し、1~4章でカバーできなかったオーストラリアの島嶼部や韓国、ベトナム、アルゼンチンといった国・地域の作家を紹介した。					
	図録	展覧会図録は作成しなかったが、「#映える風景を探して—古代ローマから世紀末パリまで」展図録等、本展の出品作品に関連する過去の図録を販売した。作品への理解を深める手助けとして、2020年度以降新型コロナウイルス感染症対策のため撤去していた見本図録を展示室内の椅子に設置した他、途中の休憩室(ビデオコーナー)内にはミニライブラリーを設けた。本展の図録を希望する意見も多かったものの、ミュージアムショップでの関連図録の売れ行きは好調だった。					
	広報	ちらし・ポスターでは、アール・デコ期のイラストレーター、エディ=ルグランの『マカオとコスマージュ』をメインビジュアルに使用した。モダンで華やかなイラストレーションを全面に使用することで、小中学生や若年層に訴求することを目指した。西洋の現代作家の著作権料が高額であるため、広報画像は19世紀以前の作品を中心に選択することとなったが、アンケートによると『エジプト誌』の細密な銅版画に関心を持って来館した方が多く見受けられた。					
	宣伝	駅貼り広告やSNS広告は実施せずに、オンライン・プレスリリースを行うとともに町田市内の全小中学校にチラシを送付して告知を行った。チラシから展覧会情報を入手した来館者が多く、夏休み期間には多くの子どもが訪れ、中学生以下の来館者は1000人超となった。夏休み終了後も9月初旬の「NHK日曜美術館アートシーン」放映、巖谷國士氏の記念講演会に関連したSNSの口コミ等の効果が大きく、展覧会前半から後半にかけて来館者数が落ち込むことなく安定して推移した。					
	ディスプレイ	広報印刷物に合わせてディスプレイもポップで親しみやすいデザインを採用し、キャプションは文字サイズを大きくするなど読みやすさに配慮した。55点の作品に200~250字程度の解説をつけた他、作品や時代背景に関する理解が深まるように14点のコラムパネルを設けた。また展示室内の休憩椅子を多めに設置し、リラックスして鑑賞できる環境を整えることを目指した。					
	イベント	仏文学者で旅行作家の巖谷國士氏による記念講演会、担当学芸員によるギャラリートークの他、夏休みイベントとして親子向けバックヤードツアー、子どものための鑑賞会を行った。特に2018年夏以来5年ぶりの開催となったバックヤードツアーと、多方面で活躍する巖谷氏の記念講演会は期待度が高く、申し込み開始後まもなく定員に達した。なお、バックヤードツアーは博物館実習のプログラムとして企画し、担当学芸員立ち合いのもと実習生15名が各部屋の解説を行った。					
	小中学生向けのガイドとキャプション	小中学生向けジュニアガイドを展示室で無料配付した。主要作品の制作地を示した世界地図や、作品を見ながら答えるクイズが好評で、会期中に全3000部が配布終了となった。また展示室内では、通常の作品キャプションの下に画中の人物や動物などを探すクイズパネルを設置し、低学年以下の子どもにも楽しく鑑賞してもらうことを目指した。					
その他特記事項	・会期中は猛暑日が連日観測され、展示室および休憩室(ビデオコーナー)での水分補給の禁止、扇子やハンディ・ファン等の利用制限について例年以上に多くのご意見をいただいた。水分補給が可能なエリアについて看板でわかりやすく周知し、展示室内の椅子を増設するなどの対策を講じたが、来年度以降も作品の保護と来館者の安全対策の両立について検討していく必要を感じた。						
館長からの指導点							
運営協議会での検証							

# 「版画家たちの世界旅行ー古代エジプトから近未来都市まで」展 アンケート集計結果

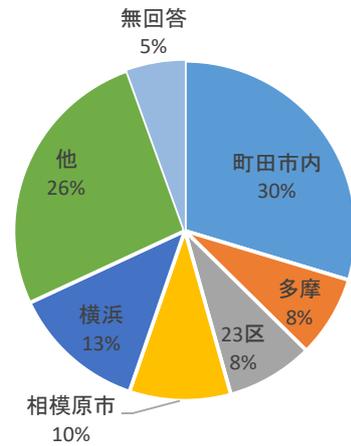
開催期間：2023年7月22日（土）～9月24日（日）

回答者数：219人（総入館者数：8,045人 アンケート回収率：2.7%）

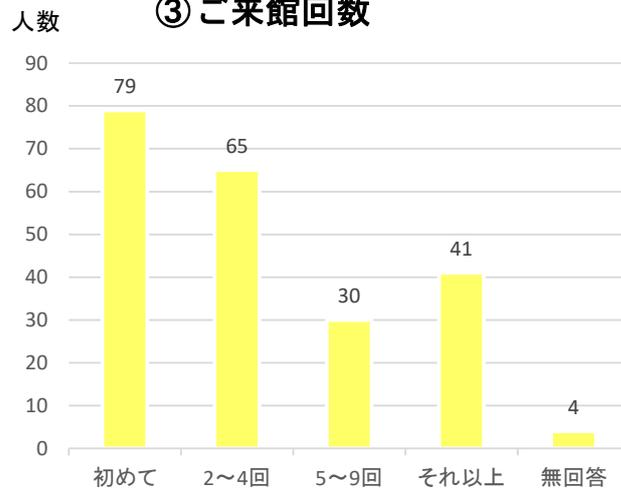
## ① 年齢層



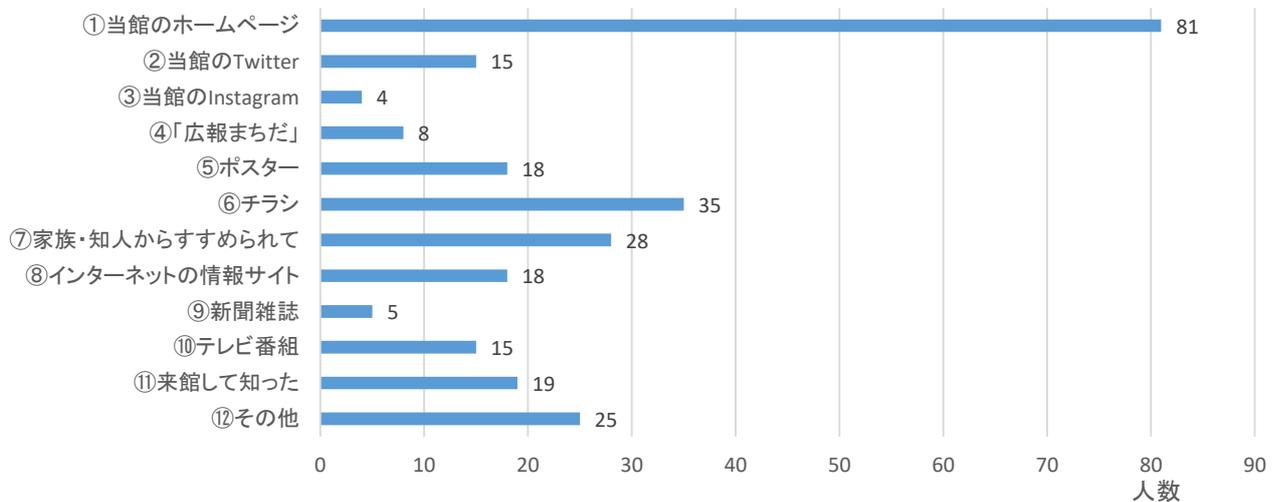
## ② お住まい



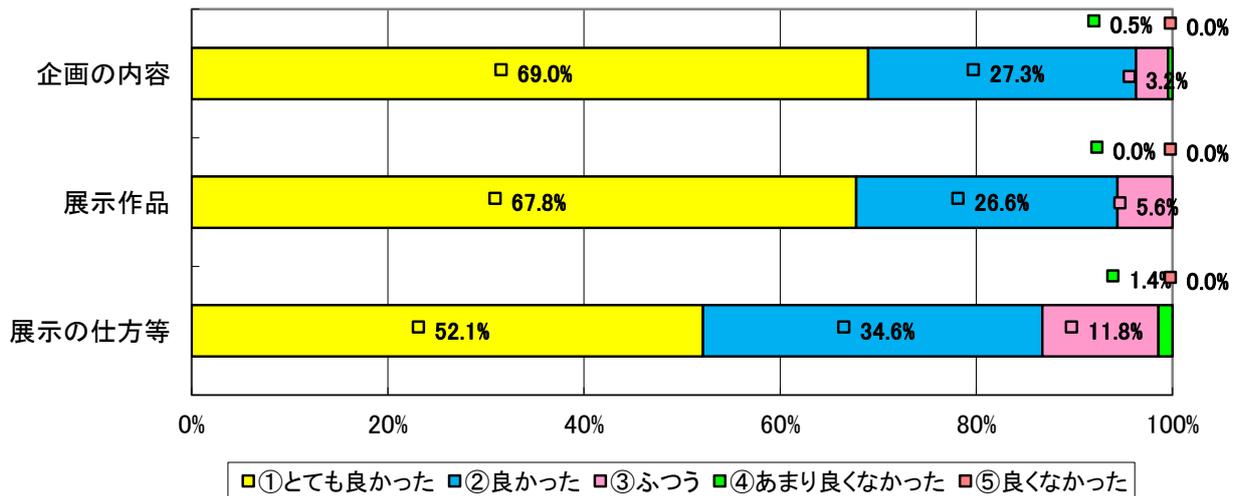
## ③ ご来館回数



## 展覧会情報の入手



## ⑥ 回答者の満足度



## ⑦ 主なご意見・感想

### ◆企画の内容

- ・世界旅行をしてみて、海外の作品から色々な視点で作品を見て、色使いや筆の使い方について見ることができ、とても良かったです。また来たいと思いました。
- ・よい視点だと思いました。古典から現代まで幅広くとても楽しめました。時代を追いながらの展示でとても分かりやすかったです。作品の下の文が何を示しているのか友人と話しながら楽しみました。
- ・版画自体に知識がなかったので、たまたま立ち寄ったので来てみたが、面白く、凸版以外の方法についても興味が湧いた。
- ・洋の東西も、時代も問わず、人は生きている時代の、良き記憶、悲しい記憶を文で絵で音でのこすのだなあと改めて思った。(企画展の島の「文明化」を、やがてのがれてゆく2人の画面は、アイデアですね。)南の島の人の手になる版画ははじめてみられてありがたかった。

### ◆展示作品

- ・またエジプト誌の扉絵が見られる！と勇んでやってきました。他の作品とは細かさ美しさが段違いで！
- ・元々17～19世紀のヨーロッパの風景画が好きで、「推し」の画家の版画作品が見られたので良かったです。私個人としては、廃墟画やピクチャレスク風景画が好きなので、そのような作品が展示される機会があれば、また伺いたいです。ありがとうございました。
- ・ゴーガンの木版をはじめて見て感動しました。他、見どころありありで、又期待して見にきます。
- ・デマジエールの「バベルの図書館」は空想でありながら現実的で楽しくジブリの様に感じた。
- ・最初は銅版ばかりか、、、と思いましたが木版、リト、スクリーンとばかりか写真もあって、とてもよかったです。銅版は巨匠もやっていてすばらしいものが多いですが、今回くらいバリエーションがある方が私はよいです。
- ・有名な作品の展覧があるとよいとおもった。

### ◆展示の仕方やキャプション

- ・説明や見どころが分かりやすく、良かったです。
- ・色々な技法の作品があっっておもしろかったです。それぞれの技法による作品の製作の仕方の解説があるととてもうれしいです。
- ・もう少し絵の説明があると良いと思う(子供に対して)
- ・目録に原語、技法がすべてのついていたのがとてもよかったです。
- ・作品の種類(リトグラフとかエッチングとか)が様々で時代と技法がまたがって見応えがありました。作品のむずかしさ？ぎょうぎょうしさに対してキャプションの「どんなダンスかな？」など何てことない手引きがよかったです。自分でも作品つくりたくなりました。

### ◆その他、感想・要望など

- ・送迎バス希望(1日1回でも)(月2回でも)町田駅から遠い。
- ・小声で少しだけ話をしたら、とたんに注意をされた。緊張感をいられ不快であった。(もう少し、ようすを見てから声かけでもよかったのではないかと)絵を觀賞する際、同行者と少しは話をしたくなるもので。
- ・スマホのカメラの音が非常に気になる。無音のアプリをすすめてはどうか。
- ・イス、ソファをもう少し置いてほしい。疲れます。